

UCCE トレース設定とログ コレクション

目次

[概要](#)

[要件](#)

[トレース設定およびログ 収集](#)

[Finesse](#)

[Cisco Agent Desktop](#)

[Cisco Supervisor Desktop](#)

[CTIOS クライアント デスクトップ](#)

[トレースにおけるクライアント関連の問題は PG をログオンし、](#)

[デバッグ CAD 同期化サービス](#)

[CAD 6.0\(X\) RASCAL サーバをデバッグして下さい](#)

[Debug chat サーバ](#)

[他の PG 関連のトレースおよびログ](#)

[CallManager PIM のイネーブルトレース](#)

[CUCM でトレースするイネーブル](#)

[イネーブル Java Telephony Application Programming Interface \(JTAPI \) ゲートウェイ \(JGW \)
アクティブ な 側面でトレースするイネーブル CTI サーバ \(CTISVR \)](#)

[VRU PIM をトレースするイネーブル](#)

[両方の CTIOSサーバのイネーブル CTIOSサーバトレース](#)

[活動ページでトレースするイネーブル Open Peripheral Controller \(OPC \)](#)

[活動ページのイネーブル Eagtpim トレース](#)

[ログを引っ張るのに Dumplog ユーティリティを使用して下さい](#)

[CVP サーバのトレースを有効に して下さい](#)

[送信ダイヤラ関連のトレースおよびログ 収集](#)

[ログを引っ張って下さい](#)

[インポーター](#)

[Campaignmanager](#)

[イネーブル ルータはルータプロセスをログオンします](#)

[ルータログを引っ張って下さい](#)

[ゲートウェイはトレースします \(SIP \)](#)

[先端トレース](#)

[トレースのための CLI の使用](#)

[CLI 例](#)

概要

この資料にクライアント、Peripheral Gateway (PG) サービス、Ciscoカスタマー 音声ポータル (CVP)、Cisco UCCE 送信 ダイヤラ、Cisco Unified Communications

Manager (CallManager) (CUCM)、および Cisco ゲートウェイのための Cisco Unified Contact Center Enterprise (UCCE) のトレースを設定する方法を記述されています。

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Unified Contact Center Enterprise (UCCE)
- Cisco Agent Desktop (CAD)
- Cisco Computer Telephony Integration Object Server (CTIOS)
- Cisco Finesse
- Cisco Customer Voice Portal (CVP)
- Cisco Unified Communications Manager (CallManager) (CUCM)
- Cisco ゲートウェイ

トレース設定およびログ 収集

注 :

このセクションで使用されているコマンドの詳細を調べるには、[Command Lookup Tool](#) ([登録ユーザ専用](#)) を使用してください。

特定の show コマンドが [アウトプット インタープリタ ツール](#) ([登録ユーザ専用](#)) でサポートされています。 show コマンド出力の分析を表示するには、アウトプット インタープリタ ツールを使用します。

[debug](#) コマンドを使用する前に、『[debug コマンドの重要な情報](#)』を参照してください。

Finesse

セキュア シェル (SSH) の Finesse サーバへのログインは必要とするログを集めるためにこれらのコマンドを入力し。ログがアップロードされる (SFTP) SSH FTP サーバを識別するためにプロンプト表示されます。

ログ

ログをインストールして下さい

デスクトップ ログ

Servm ログ

プラットフォーム Tomcat ログ

音声オペレーティング システム (VOS) インストールは記録します

コマンド

ファイルはインストール デスクトップ
install.log を得ます

ファイルは activelog デスクトップを圧縮繰り返します得ます

ファイルは activelog プラットフォーム/ログ
/servm* を得ます。 *圧縮

ファイルは activelog Tomcat/ログを圧縮繰り返します得ます

ファイルはインストール install.log を得ます

Cisco Agent Desktop

このプロシージャはデバッグ ファイルを作成し集める方法を記述します:

1. エージェント コンピューターで、C:\Program Files\Cisco\Desktop\Config ディレクトリに行き、Agent.cfg ファイルを開いて下さい。
2. **デバッグするために** OFF からデバッグしきい値を変更して下さい。トレースはより深いレベルに使用することができます。

```
[Debug Log]
Path=..\log\agent.dbg
Size=3000000
Threshold=DEBUG
```

3. Size=3000000 (6 つのゼロ) を確認して下さい。
4. コンフィギュレーション ファイルを保存して下さい。
5. エージェント プログラムを停止して下さい。
6. C:\Program Files\Cisco\Desktop\log ディレクトリのすべてのファイルを削除して下さい。
7. エージェント プログラムを開始し、問題を再現して下さい。
8. これらのデバッグ ファイルは C:\Program Files\Cisco\Desktop\log に作成され、置かれます:

agent0001.dbgctiosclientlog.xxx.log

Cisco Supervisor Desktop

このプロシージャはデバッグ ファイルを作成し集める方法を記述します:

1. エージェント コンピューターで、C:\Program Files\Cisco\Desktop\Config ディレクトリに行き、supervisor.cfg ファイルを開いて下さい。
2. **デバッグするために** OFF からデバッグしきい値を変更して下さい。トレースはより深いレベルに使用することができます。

```
[Debug Log]
Path=..\log\supervisor.dbg
Size=3000000
THRESHOLD=DEBUG
```

3. Size=3000000 (6 つのゼロ) を確認して下さい。
4. コンフィギュレーション ファイルを保存して下さい。
5. エージェント プログラムを停止して下さい。
6. C:\Program Files\Cisco\Desktop\log ディレクトリのすべてのファイルを削除して下さい。

7. エージェント プログラムを開始し、問題を再現して下さい。 supervisor0001.dbg と名付けられるデバッグ ファイルは C:\Program Files\Cisco\Desktop\log に作成され、置かれます。

CTIOS クライアント デスクトップ

CTIOS クライアントがインストールされているクライアントPC で、Regedt32 ターンアップ トレースを使用して下さい。 次の設定を変更します。

リリース値でフィルタリングする	レジストリ Location	デフォルト値	Change
先のリリース 7.x より	HKEY_LOCAL_MACHINE \ソフトウェアシスコシステムズ\Ctios \ロギング\TraceMask	0x07	0xffff に値を
リリース 7.x およびそれ以降	HKEY_LOCAL_MACHINE \ソフトウェアシスコシステムズ、株式会社\CTIOS トレース	0x40000307	トラブルシ0xffff への設

既定の出力は c:\Program Files\Cisco システム\CTIOS クライアント\CTIOS デスクトップ電話\インストール ディレクトリで CtiosClientLog と名付けられるテキストファイルに作成され、置かれます。

トレースにおけるクライアント関連の問題は PG をログオンし、

デバッグ CAD 同期化サービス

これらは CAD 同期化サービスをデバッグする設定です:

設定値	値
コンフィギュレーション ファイル	DirAccessSynSvr.cfg
デフォルトのロケーション	C:\Program Files\Cisco\Desktop\config
一般的な問題	Threshold=DEBUG
出力ファイル	DirAccessSynSvr.log

CAD 6.0(X) RASCAL サーバをデバッグして下さい

これらは CAD 6.0(X) RASCAL サーバをデバッグする設定です:

設定値	値
コンフィギュレーション ファイル	FCRasSvr.cfg
デフォルトのロケーション	C:\Program Files\Cisco\Desktop\config
一般的な問題	範囲 = 1-4、50、3000-8000
LDAP 関連の問題:	範囲 = 4000-4999
LRM 関連の問題:	範囲 = 1999-2000 年
データベース関連の問題	範囲 = 50-59
出力ファイル	FCRasSvr.log、FCRasSvr.dbg
デフォルトのロケーション	C:\Program Files\Cisco\Desktop\log

Debug chat サーバ

これらはチャット サーバをデバッグする設定です:

設定値

コンフィギュレーション ファイル
デフォルト の ロケーション
一般的な 問題
出力 ファイル
デフォルト の ロケーション

値

FCCServer.cfg
C:\Program Files\Cisco\Desktop\config
Threshold=DEBUG
FCCServer.log、FCCServer.dbg
C:\Program Files\Cisco\Desktop\log

他の PG 関連のトレースおよびログ

ログ 収集のための [ログを引っ張るために使用 Dumplog ユーティリティ](#)を参照して下さい。

CallManager PIM のトレースを有効に して下さい

トレース レベルを断続的に回すためにプロセス モニタリング (procmon) ユーティリティを使用して下さい。これらのコマンドは CallManager Peripheral Interface Manager (PIM) トレースをつけます:

```
[Debug Log]
Path=..\log\supervisor.dbg
Size=3000000
THRESHOLD=DEBUG
```

この procmon コマンドは CallManager PIM トレースを消します:

```
[Debug Log]
Path=..\log\supervisor.dbg
Size=3000000
THRESHOLD=DEBUG
```

CUCM でトレースするイネーブル

このプロシージャは CUCM トレースをつける方法を記述します:

1. Call Manager によって統一されるサービサビリティに行ってください。
2. 『Trace』 を選択して下さい/設定。
3. CM サービスを選択して下さい。
4. CTIManager (アクティブ) を選択して下さい。
5. 右上で、SDL 設定を選択して下さい。
6. SDL トレースのディセーブル Pretty プリントを除いてすべてを有効に して下さい。
7. デフォルト値でファイルの数およびサイズを残して下さい。
8. 実時間監視 ツール (RTMT) では、Cisco Call Manager および Cisco コンピュータ テレフ

オニー インテグレーション (CTI) マネージャを集めて下さい。 両方ともシステム診断インターフェイス (SDI) および Signal Distribution Layer (SDL) ログがあります。

イネーブル Java Telephony Application Programming Interface (JTAPI) ゲートウェイ (JGW)

これらの procmon コマンドは JGW トレースをつけます:

```
[Debug Log]
Path=..\log\supervisor.dbg
Size=3000000
THRESHOLD=DEBUG
```

サンプルコマンドは procmon IPCC pg1a jgw1 です。

アクティブ な 側面でトレースするイネーブル CTI サーバ (CTISVR)

このプロシージャはアクティブ な 側面の CTISVR トレースを有効に する方法を記述します:

1. HKLM \ソフトウェア\シスコシステムズ、Incl\cm\- 2. EMSTraceMask = f8 を設定して下さい。

VRU PIM をトレースすることを有効に して下さい

注: コマンドは大文字/小文字の区別があります。 Voice Response Unit (VRU) PG は Cisco Unified CallManager (CCM) と異なっています PG。

これらの procmon コマンドは VRU PIM のためのトレースを回します:

```
[Debug Log]
Path=..\log\supervisor.dbg
Size=3000000
THRESHOLD=DEBUG
```

この procmon コマンドは VRU PIM トレースを消します:

```
[Debug Log]
Path=..\log\supervisor.dbg
Size=3000000
THRESHOLD=DEBUG
```

両方の CTIOSサーバのイネーブル CTIOSサーバトレース

このプロシージャは両方の CTIOSサーバのトレースを有効に する方法を記述します:

1. 現在のトレースのメモを後で使用できるように覆わせます。
2. 編集するためにレジストリ エディタを HLKM >> ソフトウェア\シスコシステムズ株式会社\ ICM \ <cust_inst \ CTIOS \ EMS \ CurrentVersion \ライブラリ\プロセス\ ctios 使用して下さい

い。

3. セット:

- EMSTraceMask = 0x60A0F
- リリースによるこれらの値の 1 つへの EMSTraceMask、:
 - リリース 6.0 およびそれ以前のための 0x0A0F
 - リリース 7.0 のための 0x20A0F および 7.1(1)
 - リリース 7.1(2) およびそれ以降のための 0x60A0F

既定のトレース マスクはそれが 0x20003 であるところに、リリース 7.0(0) を除くすべてのリリースの 0x3 です。

トレース マスクに高い 値が (0xf かより高い) あったり、CTIOSサーバ パフォーマンスおよび通話完了 比率に大きい影響があります。問題をデバッグしているときだけ高い 値でトレース マスクを設定して下さい; 必要なログを集めたら、デフォルト値にトレース マスクを設定し直して下さい。

トラブルシューティングを行うのに、CTIOSサーバトレース マスクをに設定して下さい:

- リリース 6.0 およびそれ以前のための 0x0A0F
- リリース 7.0 のための 0x20A0F、および 7.1(1)
- リリース 7.1(2) およびそれ以降のための 0x60A0F

活動ページでトレースするイネーブル Open Peripheral Controller (OPC)

これらの opctest コマンドは活動ページの OPC トレーシングをつけます:

```
[Debug Log]
Path=..\log\supervisor.dbg
Size=3000000
THRESHOLD=DEBUG
```

これはラボ 環境からの例です:

```
C:\Documents and Settings\ICAdministrator>opctest /cust ccl /node pgl
OPCTEST Release 8.0.3.0 , Build 27188
opctest: debug /agent /routing /cstacer /tpmsg /closedcalls !-- Use debug /on in
order to restore default tracing levels
opctest: quit
```

追加例は次のとおりです:

```
C:\Documents and Settings\ICAdministrator>opctest /cust ccl /node pgl
OPCTEST Release 8.0.3.0 , Build 27188
opctest: debug /agent /routing /cstacer /tpmsg /closedcalls !-- Use debug /on in
order to restore default tracing levels
opctest: quit
```

活動ページのイネーブル Eagtpim トレース

これらの procmon コマンドは活動ページの eagtpim トレースをつけます:

```
C:\Documents and Settings\ICAdministrator>opctest /cust ccl /node pgl
OPCTEST Release 8.0.3.0 , Build 27188
opctest: debug /agent /routing /cstacer /tpmsg /closedcalls !-- Use debug /on in
```

```
order to restore default tracing levels
opctest: quit
```

これはラボ環境からの例です:

```
C:\Documents and Settings\ICMAdministrator>opctest /cust ccl /node pglA
OPCTEST Release 8.0.3.0 , Build 27188
opctest: debug /agent /routing /cstacer /tpmsg /closedcalls !-- Use debug /on in
order to restore default tracing levels
opctest: quit
```

ログを引っ張るのに Dumplog ユーティリティを使用して下さい

追加詳細については [Dumplog ユーティリティを使用する方法](#)を参照して下さい。この例に示すようにログファイル ディレクトリに、到達するために **cdlog** コマンドを使用して下さい:

```
c:\cdlog <customer_name> pglA !-- Or, pgXa to depending on the PG number (X)
c:\icm\<customer_name>\<PG#>\logfiles\
```

これらの例はデフォルトファイルに出力を置く方法を示します; いずれの場合も、出力ファイルの特定の 名前を定義するために **/of** を使用できます:

```
c:\icm\<customer_name>\<PG#>\logfiles\dumplog piml /bt <HH:MM> /et <HH:MM> /ms /o
!-- This PIM example places output in a default piml.txt file
```

```
c:\icm\<customer_name>\<PG#>\logfiles\dumplog opc /bt <HH:MM> /et <HH:MM> /ms /o
!-- This OPC example places output in a default opc.txt file
```

```
c:\icm\<customer_name>\<PG#>\logfiles\dumplog jgw1 /bt <HH:MM> /et <HH:MM> /ms /o
c:\cdlog <customer_name> cglA
c:\icm\<customer_name>\<cg#>\logfiles\
!-- This JTAPI example places output in a default jgw1.txt file
```

```
c:\icm\<customer_name>\cg#\logfiles\dumplog ctisvr /bt <HH:MM> /et <HH:MM> /ms /o
!-- This CTI server example places output in a default ctisvr.txt file
```

```
c:\ icm\<customer_name>\ctios\logfiles\dumplog ctios /bt <HH:MM> /et <HH:MM> /ms /o
!-- This CTIOS server example places output in a default ctios.txt file
```

CVP サーバでトレースするイネーブル

SIP

このプロシージャは Cisco SIP IP Phone ソフトウェアの CVP サーバのトレースを有効にする方法を記述します:

1. コール サーバで、CVP diag ツール ([http://localhost\(CallServer\):8000/cvp/diag](http://localhost(CallServer):8000/cvp/diag)) Session Initiation Protocol (SIP) スタックをに得るため行って下さい。
2. デバッグの com.dynamicsoft.Dslibs.DsUAlibs を追加して下さい。
3. 『Set』 をクリックして下さい。
4. **DEBUG/41** をクリックして下さい。

このプロシージャは H323 ゲートウェイが付いている CVP サーバのトレースを有効にする方法を記述します:

1. コール サーバ、VBAAdmin へのログイン。
2. CVP 音声ブラウザのためのこれらのトレースを有効に して下さい:

```
c:\icm\
```

コール サーバからの CVP ログを引っ張って下さい

テスト期間の時のための Error.log CVP *.log ファイルおよびファイルを集めて下さい。これらのファイルは両方の CVP サーバの C:\Cisco\CVP\logs ディレクトリにあります。

これらは CVP_HOME が統一された CVP ソフトウェアがインストールされているディレクトリの統一された CVP のためのログファイルの 保存先です。

ログの型

コール サーバやレポート サーバー ログ
オペレーション コンソール ログ
音声 XML (VXML) サーバログ
簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) エージェント ログ
統一された CVP リソースマネージャ ログ

場所

CVP_HOME \ログ\
CVP_HOME \ログ\ OAMP \
CVP_HOME \ログ\ VXML \
CVP_HOME \ログ\ SNMP \
CVP_HOME \ログ\ ORM \

位置例は C:\Cisco\CVP です。

VXML サーバログ

Audium 展開されたアプリケーションのようなカスタム音声 XML アプリケーションの場合、デバッグ ロガーを始動できます。

C:\Cisco\CVP\VXMLServer\applications\APP_NAME \データ\アプリケーション\ディレクトリの settings.xml コンフィギュレーション ファイルの <loggers> セクション (最後のセクション) にこの行を追加して下さい:

```
c:\icm\
```

```
!-- This OPC example places output in a default opc.txt file
```

```
c:\icm\c:\cdlog <customer_name> cgl1
```

```
c:\icm\
```

```
!-- This JTAPI example places output in a default jgw1.txt file
```

```
c:\icm\
```

```
!-- This CTI server example places output in a default ctisvr.txt file
```

```
c:\ icm\
```

```
!-- This CTIOS server example places output in a default ctios.txt file
```

ランタイムで、このロガーは\Cisco\CVP\VXMLServer\アプリケーション\APP_NAME に詳しい VoiceXML ログを\MyDebuggerLogger ディレクトリ出力します。

注: MyDebuggerLogger から選択するあらゆる名前に settings.xml コンフィギュレーション ファイルのロガーの名前を変更できます。

送信ダイヤラ関連のトレースおよびログ 収集

このプロシージャは badialer プロセスを増加する方法をログオンします (通常 PG にある) 送信ダイヤラ記述します。

1. EMSDisplaytoScreen を = 0 確認して下さい。
2. HKEY_LOCAL_MACHINE \ソフトウェア\シスコシステムズを編集するためにレジストリ エディタを株式会社\ICM\- 3. セット:
 - EMSTraceMask = 0xff
 - EMSUserData = ff ff (バイナリモードの 4 つの fs)
- 4. HKEY_LOCAL_MACHINE \ソフトウェア\シスコシステムズを編集するためにレジストリ エディタを株式会社\ICM\- 5. DebugDumpAllEvents を = 1.設定 して下さい。

ログを引っ張って下さい

/icm/ <instance>/dialer/logfiles ディレクトリから Dumlog ユーティリティを実行して下さい:

```
c:\icm\!-- This PIM example places output in a default pim1.txt file
```

```
c:\icm\!-- This OPC example places output in a default opc.txt file
```

```
c:\icm\c:\cdlog <customer_name> cgl1  
c:\icm\
```

```
!-- This JTAPI example places output in a default jgw1.txt file
```

```
c:\icm\
```

```
!-- This CTI server example places output in a default ctisvr.txt file
```

```
c:\ icm\
```

```
!-- This CTIOS server example places output in a default ctios.txt file
```

インポーター

このプロシージャは baimport プロセス ログを増加する方法を記述します。

1. HKEY_LOCAL_MACHINE \ソフトウェア\シスコシステムズを編集するためにレジストリ エディタを株式会社\ICM\

2. セット:

- EMSTraceMask = 0xff
- EMSUserData = ff ff (バイナリモードの 4 つの f's)

3. /icm/ <instance>/la/logfiles ディレクトリから Dumplog ユーティリティを実行して下さい:

```
c:\icm\!-- This PIM example places output in a default pim1.txt file
```

```
c:\icm\!-- This OPC example places output in a default opc.txt file
```

```
c:\icm\c:\cdlog <customer_name> cgla  
c:\icm\!-- This JTAPI example places output in a default jgw1.txt file
```

```
c:\icm\!-- This CTI server example places output in a default ctisvr.txt file
```

```
c:\ icm\!-- This CTIOS server example places output in a default ctios.txt file
```

Campaignmanager

このプロシージャは campaignmanager プロセス ログを増加する方法を記述します。

1. HKEY_LOCAL_MACHINE \ソフトウェア\シスコシステムズを編集するためにレジストリ エディタを株式会社\ICM\

2. セット:

- EMSTraceMask = 0xff
- EMSUserData = ff ff (バイナリモードの 4 つの f's)

3. /icm/ <instance>/la/logfiles ディレクトリから Dumplog ユーティリティを実行して下さい:

```
c:\icm\
```

```
c:\icm\
```

```
c:\icm\
```

```
c:\icm\
```

```
c:\ icm\
```

Avaya 通信マネージャ (ACD) で PG、CallManager および Avaya 両方のために次を増加するために OPCTest ユーティリティを使用して下さい。

```
c:\icm\
```

```
c:\icm\
```

```
c:\icm\
```

```
c:\icm\
```

```
c:\ icm\
```

このプロシージャは ctisvr プロセスのためにトレースを高める方法を記述します。

1. HKEY_LOCAL_MACHINE \ソフトウェア\シスコシステムズを編集するためにレジストリ エディタを Inc.\ICM\icm\CG1A\EMS\CurrentVersion\Library\Processes\ctisvr 使用して下さい。

2. EMSTraceMask = f8 を設定して下さい。 ほしい場合 f0 で値を残すことができます。

イネーブル ルータはルータプロセスをログオンします

このプロシージャはルータログをイネーブルに設定する方法を記述します:

1. ルータで、Start > Run にナビゲートし、rttrace を入力して下さい。
2. 顧客名を入力して下さい。
3. [Connect] をクリックします。
4. 次のオプションを選択します。

agentchangesrouterrequestsscriptsselectsnetworkvrutracingstranslationrouteccallqueuingcalltype
realtime

5. [Apply] をクリックします。

6. ユーティリティを終了して下さい。

opctest リリース 8.5 に関しては、診断フレームワーク柱廊玄関を代わりに使用して下さい。

```
c:\icm\
```

ルータログを引っ張って下さい

テストの時間のどちらかのルータからのルータログを引っ張るために Dumplog ユーティリティを使用して下さい。追加詳細については [Dumplog ユーティリティを使用する方法を参照して下さい](#)。

これは Log 要求の例のためのログオンします 09:00:00 と 09:30:00 の間の 10/21/2011 をです (24 時間時刻形式で)。この出力はファイル C に行きます: /router_output.txt:

```
C:\Documents and Settings\ICAdministrator>cdlog u7x ra
C:\icm\u7x\ra\logfiles>dumplog rtr /bd 10/21/2011 /bt 09:00:00 /ed 10/21/2011
/et 09:30:00 /ms /of C:/router_output.txt
```

出力ファイル (C を入れて下さい: トラブルシューティングのためのもし必要なら Cisco への /router_output.txt)。

ゲートウェイはトレースします (SIP)

これらのコマンドは SIP と CVP サーバのトレースを回します:

```
C:\Documents and Settings\ICAdministrator>cdlog u7x ra
C:\icm\u7x\ra\logfiles>dumplog rtr /bd 10/21/2011 /bt 09:00:00 /ed 10/21/2011
/et 09:30:00 /ms /of C:/router_output.txt
```

注: 本番 Cisco IOS[®] ソフトウェア GW のどの変更により停止を引き起こすかもしれません。

これは問題なしで提供されたコール音量で推奨されるデバッグを処理できる非常に強いプラットフォームです。ただし、Cisco はことを推奨します:

- ログバッファにの代りに syslog サーバにすべてのログを送信して下さい:

```
C:\Documents and Settings\ICAdministrator>cdlog u7x ra
C:\icm\u7x\ra\logfiles>dumplog rtr /bd 10/21/2011 /bt 09:00:00 /ed 10/21/2011
/et 09:30:00 /ms /of C:/router_output.txt
```

- debug コマンドを一つずつ適用し、各自の後に CPU稼働率をチェックして下さい:

```
C:\Documents and Settings\ICAdministrator>cdlog u7x ra
C:\icm\u7x\ra\logfiles>dumplog rtr /bd 10/21/2011 /bt 09:00:00 /ed 10/21/2011
/et 09:30:00 /ms /of C:/router_output.txt
```

注: CPU が 70-80% まで CPU稼働率を得る場合、能力サービス効果のリスクは大幅に増加します。従って GW が 60% を見つける場合、追加デバッグを有効にしないで下さい。

これらのデバッグを有効にします :

```
C:\Documents and Settings\ICAdministrator>cdlog u7x ra
C:\icm\u7x\ra\logfiles>dumplog rtr /bd 10/21/2011 /bt 09:00:00 /ed 10/21/2011
/et 09:30:00 /ms /of C:/router_output.txt
```

コールを作った、問題を模倣する後、デバッグを停止して下さい:

```
C:\Documents and Settings\ICAdministrator>cdlog u7x ra
C:\icm\u7x\ra\logfiles>dumplog rtr /bd 10/21/2011 /bt 09:00:00 /ed 10/21/2011
/et 09:30:00 /ms /of C:/router_output.txt
```

この出力を集めて下さい:

```
C:\Documents and Settings\ICAdministrator>cdlog u7x ra
C:\icm\u7x\ra\logfiles>dumplog rtr /bd 10/21/2011 /bt 09:00:00 /ed 10/21/2011
/et 09:30:00 /ms /of C:/router_output.txt
```

先端トレース

これらのコマンドは Cisco Unified SIP Proxy (先端) の SIP トレースをつけます:

```
C:\Documents and Settings\ICAdministrator>cdlog u7x ra
C:\icm\u7x\ra\logfiles>dumplog rtr /bd 10/21/2011 /bt 09:00:00 /ed 10/21/2011
/et 09:30:00 /ms /of C:/router_output.txt
```

終了したらログオフを回すことを忘れないようにして下さい。

このプロシージャはログを集める方法を記述します:

1. 先端のユーザを設定して下さい (たとえば、テスト)。
2. 先端プロンプトでこの設定を追加して下さい:

```
C:\Documents and Settings\ICAdministrator>cdlog u7x ra
C:\icm\u7x\ra\logfiles>dumplog rtr /bd 10/21/2011 /bt 09:00:00 /ed 10/21/2011
/et 09:30:00 /ms /of C:/router_output.txt
```

3. 先端 IP アドレスに FTP して下さい。 前の手順で定義されたようにユーザ名 (テスト) およびパスワードを使用して下さい。
4. /cusp/log/trace にディレクトリを変更して下さい。
5. log_<filename> を得て下さい。

トレースのための CLI の使用

UCCE リリース 8 およびそれ以降では、トレースを収集するために統一されたシステム Command Line Interface (CLI) を使用できます。全体の一組の PG または Rogger のような 1 サーバからのログを得るために dumplog ユーティリティと比較されて、CLI は非常にファーストおよび効果的な方法です。

このプロシージャは問題解析を開始する方法をおよび有効になるべきかどんなトレースを判別する方法を記述します。これらのサーバからの例収集ログ:

- ROUTER-A/ROUTER-B
- LOGGER-A/LOGGER-B
- PGXA/PGXB
- すべての CVP コール サーバ
- すべての CVP VXML/Media サーバ (もしあれば)

1. リストの各システムで、各サーバの統一されたシステム CLI を開き、このコマンドを実行して下さい:

```
C:\Documents and Settings\ICMAdministrator>cdlog u7x ra
C:\icm\u7x\ra\logfiles>dumplog rtr /bd 10/21/2011 /bt 09:00:00 /ed 10/21/2011
/et 09:30:00 /ms /of C:/router_output.txt最初の mm-dd-yyyy を取り替えて下さい: hh: イベントの前におよそ 15 分である日時が付いているストリング mm の。
```

第 2 mm-dd-yyyy を取り替えて下さい: hh: イベントが解決されたおよそ 15 分後ある日時が付いているストリング mm の。 イベントがまだ発生する場合、少なくとも 15 分を収集して下さい。これは X が順に次の数であるところで clioutputX.zip と名付けられるファイルを生成します。

2. 各システムの Windows アプリケーション/セキュリティ/システムをログオンし Comma-Separated Values (CSV) 形式を、C:\Temp に保存しますディレクトリをエクスポートして下さい。
3. Windows CSV ログを zip にステップ 1 から追加し、この形式の ZIP ファイルを名前を変更して下さい:

```
<SERVERNAME>-SystCLILogs-EvntOn-YYYYMMDD_HHMMSS.zip
```

4. あらゆるエージェント PG で、失敗が見られる度にログオンしますディレクトリ C:\Program Files\Cisco\Desktop\logs を集めて下さい。 ログイン しますこの形式の名前のファイルに ZIP にして下さい:

```
<SERVERNAME>-CADLogs-EvntOn-YYYYMMDD_HHMMSS.zip
```

CAD ブラウザ 版 C:\Program Files\Cisco\Desktop\Tomcat\logs ディレクトリからのログを収集し、同じ ZIP ファイルに追加しなさい (CAD-BE) または CAD Web 製品を使用している場合。

Windows 2008 x64 製品の何れかで動作する場合、ログ ディレクトリは C:\Program ファイ

ル (x86)\Cisco\Desktop\ の下にあります...

5. E-メールを送るか、または接続するために余りにも大きい場合これらのファイルをサービスリクエストに添付するか、または FTP にファイルをアップロードして下さい。

このその他の情報をもし可能なら収集して下さい:

- イベント開始および停止時間。
- イベントに関連する ANI/DNIS/AgentID の複数のサンプル。 少なくとも、Cisco はこれらの少なくともイベントを参照することを 1 つが必要とします。
- RouteCallDetail (RCD) およびイベントを囲む時間の TerminationCallDetail (TCD) 。
RCD クエリは下記のとおりです:
DbDateTime > 「YYYY-MM-DD HH Route_Call_Detail から 『*』 を選択して下さい: MM: SS.MMM」 および DbDateTime < 「YYYY-MM-DD HH: MM: SS.MMM」 TCD クエリは下記のとおりです:
DbDateTime > 「YYYY-MM-DD HH Termination_Call_Detail から 『*』 を選択して下さい: MM: SS.MMM」 および DbDateTime < 「YYYY-MM-DD HH: MM: SS.MMM」

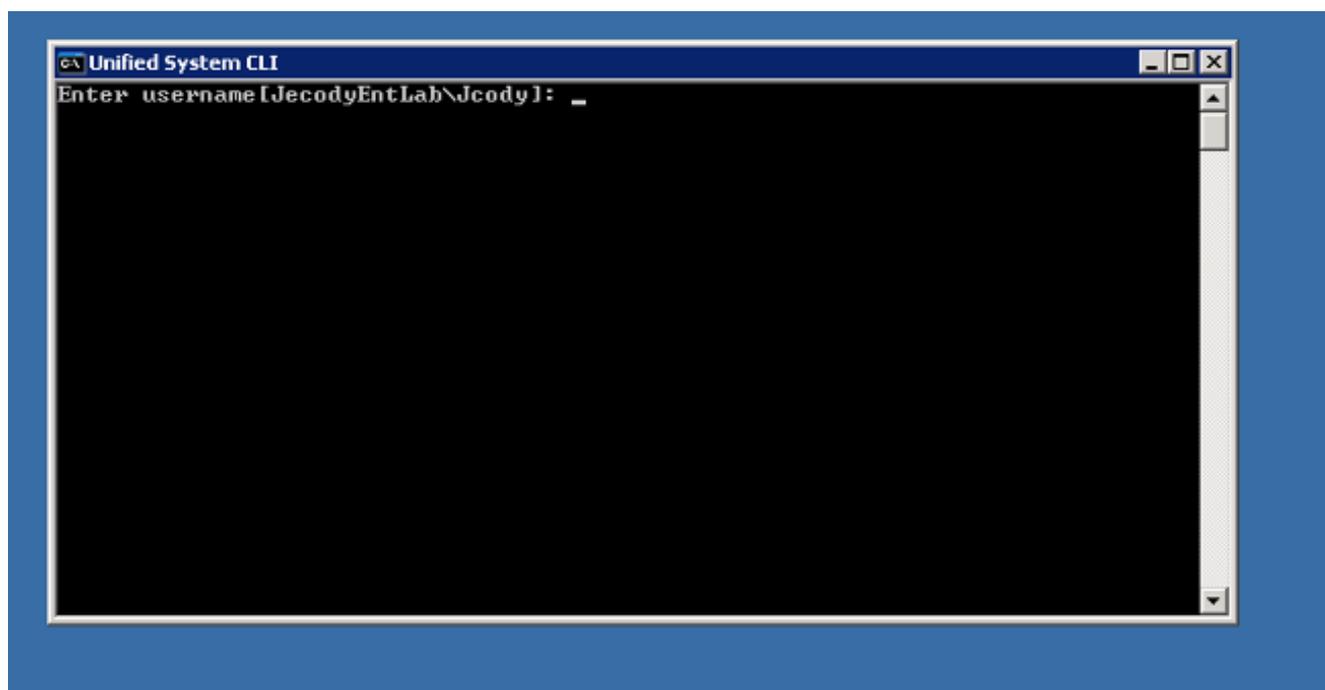
CLI 例

注: これらの操作がシステムに影響を与えるかもしれない従って時間外または遅い時間の間にこの作業をしたいと思う場合もある警告されます。

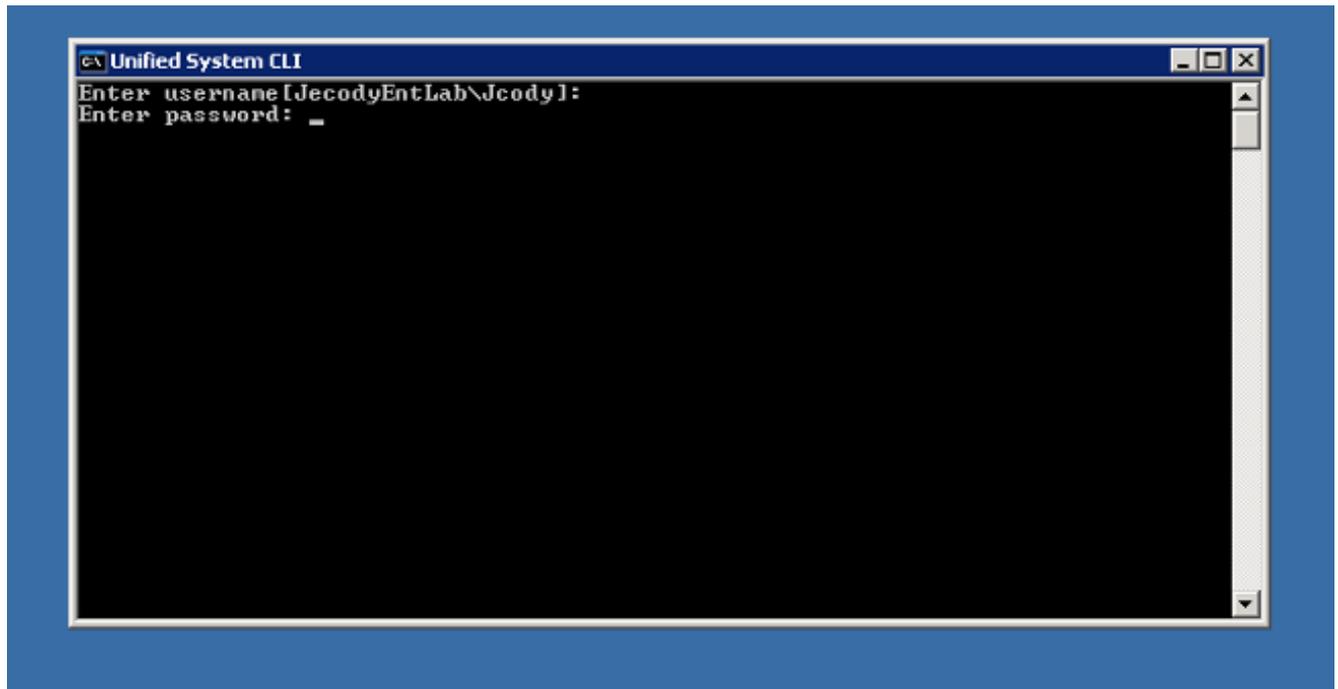
2 つのツールがあります: 診断フレームワーク ツールおよびシステム CLI ツール。 両方ともデスクトップのまたは各サーバのプログラム ディレクトリの下アイコンです。

このプロシージャはトレースのために統一されたシステム CLI を使用する方法を記述します。

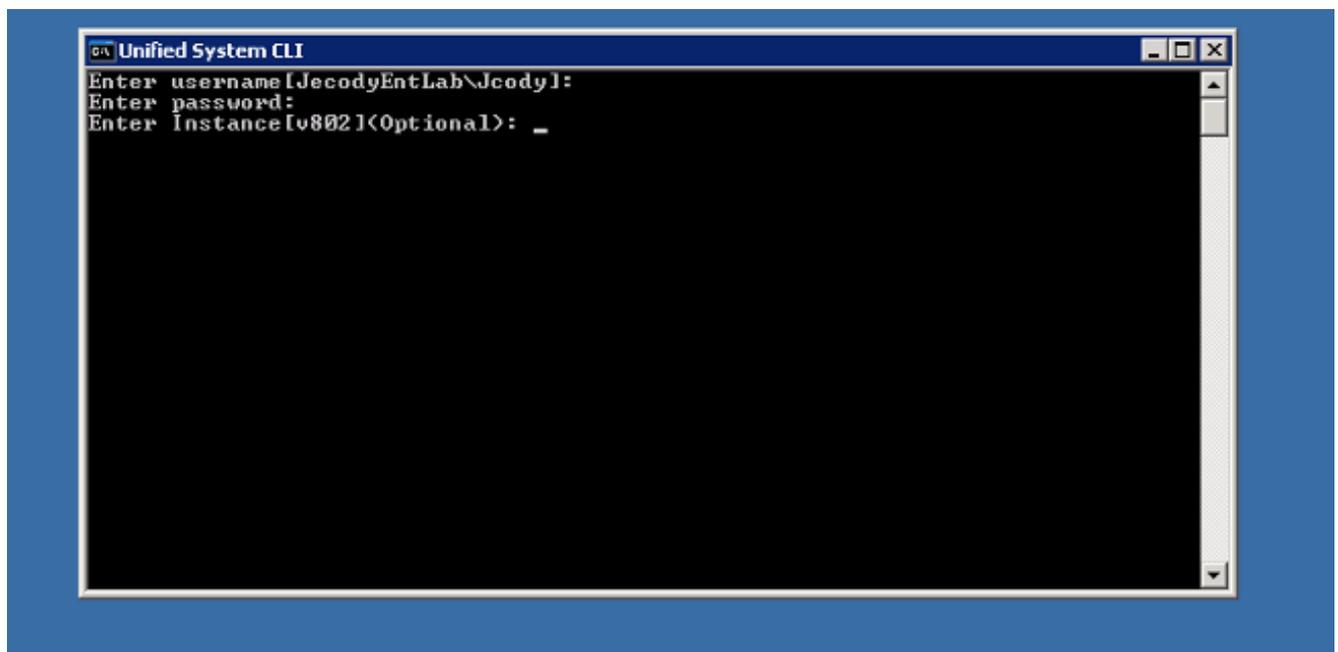
1. 統一されたシステム CLI アイコンを、そしてドメインとのログインおよびユーザ名クリックして下さい。 (この例で、ドメイン管理者はの前にログオンしました、従って CLI は既にドメイン (JecodyEntLab) およびユーザネーム (Jcody) を識別しています。



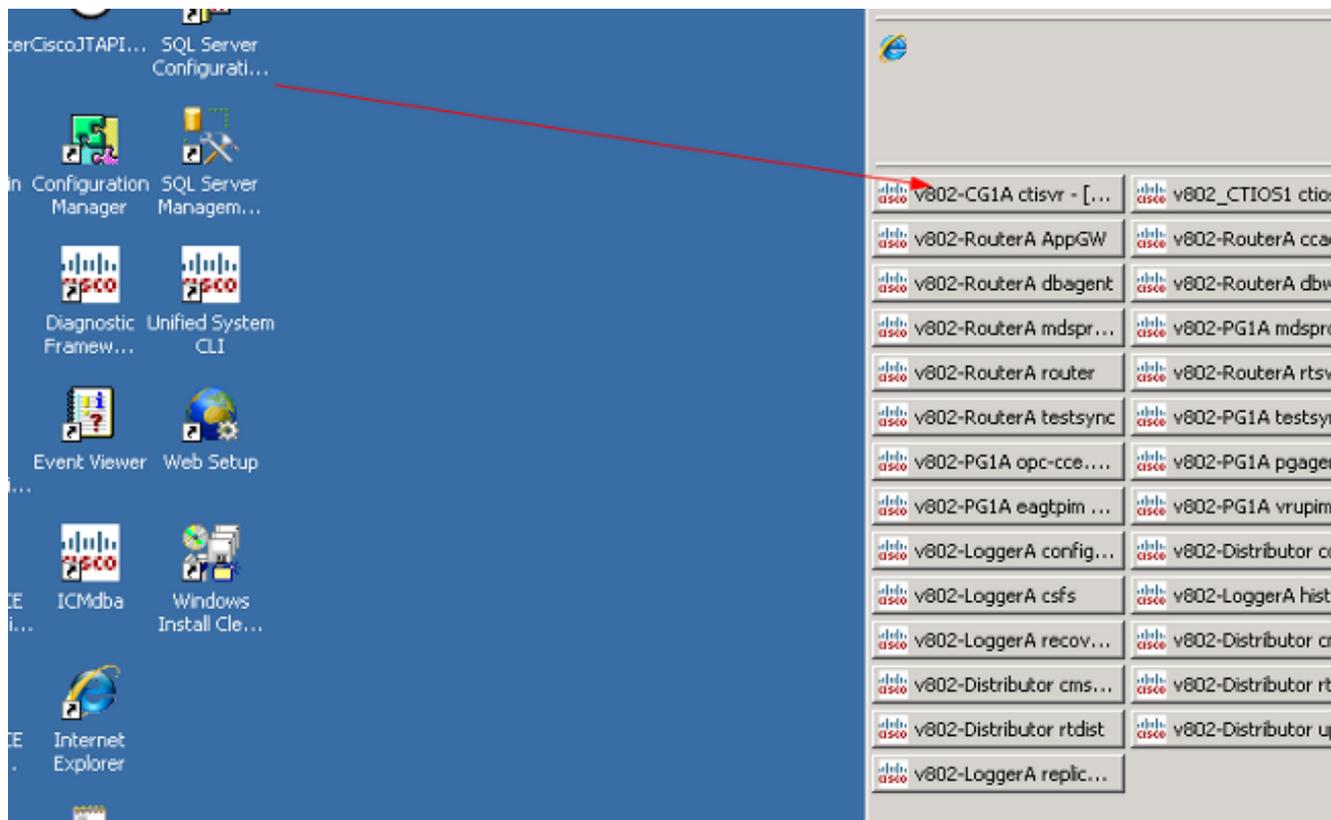
2. パスワードを入力します。



3. インスタンス名を入力して下さい; この例では、それは v802 です。サービスの 1 つで PG で検知して下さい; インスタンス名はサービス名の最初の一部です。



4. インスタンス名を検索する単純な方法はサーバで動作しているサービスを検知することです。



5. 歓迎メッセージが表示されたら、このコマンドを入力して下さい:

```
C:\Documents and Settings\ICMAdministrator>cdlog u7x ra  
C:\icm\u7x\ra\logfile>dumplog rtr /bd 10/21/2011 /bt 09:00:00 /ed 10/21/2011  
/et 09:30:00 /ms /of C:/router_output.txt
```

最初の *mm-dd-yyyy* を取り替えて下さい: *hh*: イベントの前におよそ 15 分である日時が付いているストリング *mm* の。

第 2 *mm-dd-yyyy* を取り替えて下さい: *hh*: イベントが解決されたおよそ 15 分後ある日時が付いているストリング *mm* の。

イベントがまだ発生する場合、少なくとも 15 分を収集して下さい。

これは X が順に次の数であるところで clioutputX.zip と名付けられるファイルを生成します。
。

```
Unified System CLI
admin:show tech-support absdatetime 02-01-2013 02-13-2013 redirect dir c:\temp
Warning: Because running this command can affect system performance,
Cisco recommends that you run the command during off-peak hours.
Do you want to continue? [y/n]: y
Retrieving [version] data from device [localhost] ProductType [icm] ...
Retrieving [component] data from device [localhost] ProductType [icm] ...
Retrieving [log] data from device [localhost] ProductType [icm] ...
Downloading file: [Perf_ENT-802-SPR_20130123125004.csv], date: [Sun Feb 03 04:20
:50 EST 2013], size: [999928] bytes ...
Downloading file: [Perf_ENT-802-SPR_20130203042059.csv], date: [Sun Feb 03 04:20
:59 EST 2013], size: [701068] bytes ...
Downloading file: [Perf_ENT-802-SPR_20130210160731.csv], date: [Sun Feb 10 16:07
:31 EST 2013], size: [334] bytes ...
Downloading file: [Perf_ENT-802-SPR_20130210160739.csv], date: [Sun Feb 10 16:07
:39 EST 2013], size: [334] bytes ...
Downloading file: [Perf_ENT-802-SPR_20130212134204.csv], date: [Tue Feb 12 13:42
:05 EST 2013], size: [147539] bytes ...
```

6. プロセスが完了したら、ディレクトリの clioutputX.zip ファイルを探して下さい:

```
Unified System CLI
Configuration: ExportICMCFG
Fetching configuration resource for component ConfigExport
Configuration: ConfigExport
Fetching configuration resource for component Registry
Configuration: Registry
Retrieving [debug] data from device [localhost] ProductType [icm] ...
Retrieving [license] data from device [localhost] ProductType [icm] ...
Retrieving [perf] data from device [localhost] ProductType [icm] ...
Retrieving [platform] data from device [localhost] ProductType [icm] ...
Retrieving [sessions] data from device [localhost] ProductType [icm] ...
Retrieving [devices] data from device [localhost] ProductType [icm] ...
Output is saved to "c:\temp\clioutput0.zip"
admin:_
```

注: このファイルはこのサーバのすべてのサービスのためのすべての UCCE 関連のファイルが含まれているので一般的に非常に大きいです。

7. 1 ログだけ必要とする場合、より古い Dumplog ユーティリティを使用するか、または診断フレームワーク柱廊玄関を使用することそれを容易見つけるかもしれません:

https://ent-802-spr.7890/icmp-dp/rest/DiagnosticPortico Certificate Error Live Search

File Edit View Favorites Tools Help

Unified ICM-CCE-CCH Diagnostic Framework Portico

Unified ICM-CCE-CCH Diagnostic Framework Portico

Hostname: ENT-802-SPR.JecodyEntLab.com Address: 14.10.150.108

Commands:

- Alarm**
 - SetAlarms
 - GetAlarms
- Configuration**
 - ListConfigurationCategories
 - GetConfigurationCategories
- Inventory**
 - ListAppServers
- License**
 - GetProductLicense
- Log**
 - ListLogComponents
 - ListLogFiles
- Network**
 - GetNetStat
 - GetPConfig
 - GetTraceRoute
 - GetPing
- Performance**
 - GetPerformanceSummary

ListTraceFiles

Component: CTI Server 1A/clisvr

FromDate: MM/DD/YYYY 5 / 7 / 2013 HH:MM:SS 12 : 0 : 0 AM

ToDate: MM/DD/YYYY 5 / 7 / 2013 HH:MM:SS 9 : 17 : 13 AM

Show URL

Submit

Trusted sites 100%